

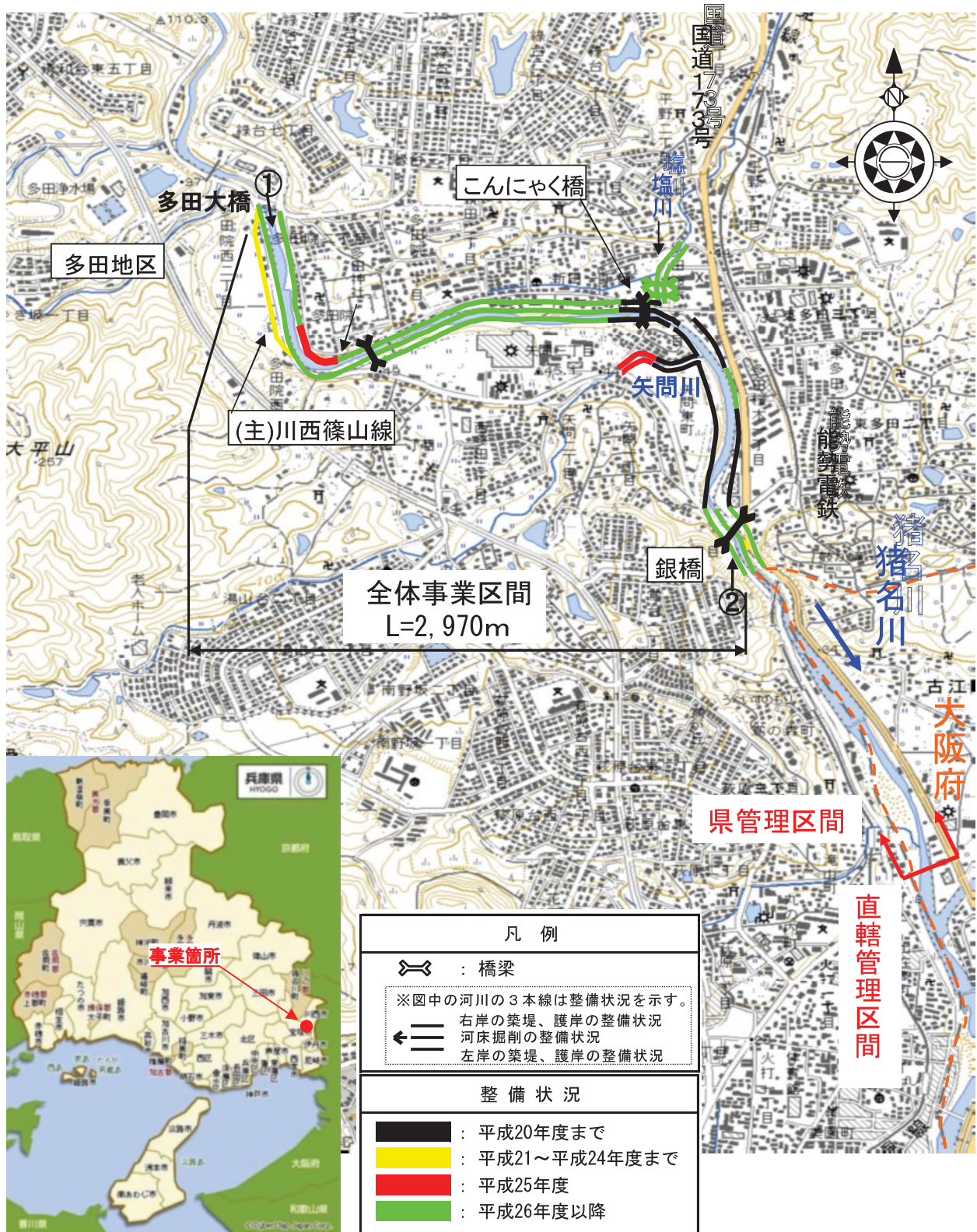
中間報告

2. 淀川水系 猪名川圏域 河川整備計画

河川整備計画策定報告（中間）

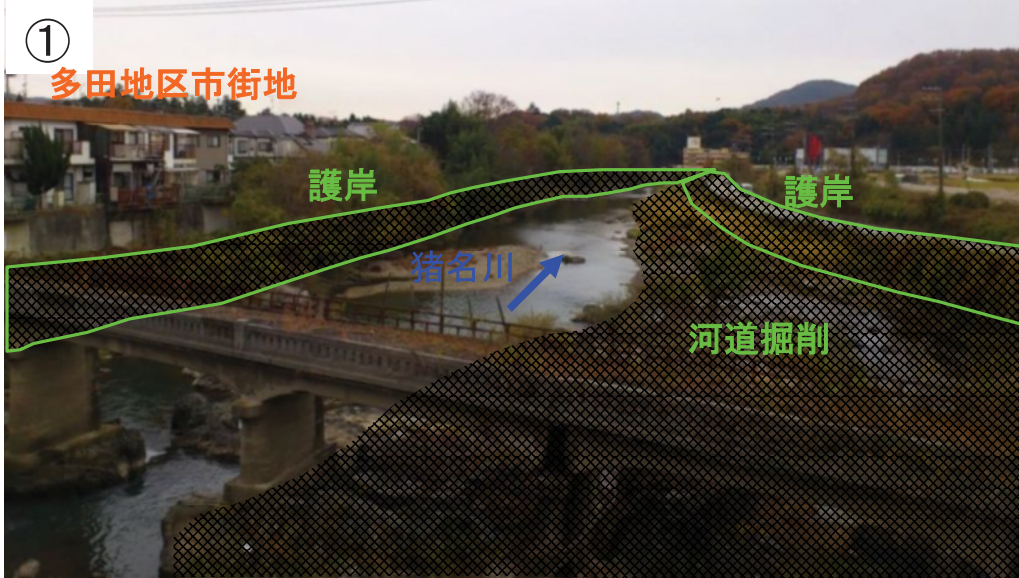
部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課 松本正利 (都市河川係長 山本良太郎)	内線	4408 (4417)	
事業種目	河川事業	新規評価年度	—	現計画	前回評価時点	
事業名	一級河川淀川水系 猪名川 総合治水対策 特定河川事業	事業採択年度	S59	総事業費	212億円	
		着工年度	S59	内用地補償費	175億円	
		再評価年度	H10	完成予定年度	H35	H35
H15 H20	進捗率 (内用補進捗率)		91% (88%)	85% (85%)		
事業区間	川西市鼓が滝～多田院			残事業費	19億円	
所在地	川西市				30億円	
事業の目的				事業内容		
猪名川銀橋上流域の浸水被害を防止するため、昭和28年9月台風13号に対応した治水安全度1/10の確保を目標に改修を行い、地域住民の安全・安心な生活環境を確保する。				計画流量	現計画 前回から 変更なし	
				整備延長 主要工種		前回(H20) 1,420m ³ /s(1/10) (銀橋地点) 2,970m 築堤、掘削、護岸、 橋梁4橋
				〔負担割合：国1/2、県1/2〕		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	①国において、平成19年8月に淀川水系河川整備基本方針、平成21年3月に下流の直轄区間の淀川水系河川整備計画が策定された。 ②県管理区間については、国の計画と整合する淀川水系猪名川圏域河川整備計画を策定する。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 変更なし					
進捗状況	①これまでに、橋梁2橋、銀橋上流の築堤、護岸、掘削、横断構造物の改築等を実施し、こんにやく橋上流まで(L=600m)は概成した。 ②下流直轄区間の整備が進捗し、平成24年度より銀橋周辺の狭窄部の開削に着手した。 ③支川矢間川は、平成21年度より護岸工事に着手し、平成25年度に完成予定。 ④多田地区の(主)川西篠山線の付替は、平成24年度に部分供用し、護岸工事に着手した。					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見及び 対応方針 (前回再評価)	【審査会意見】 継続妥当		【対応方針】			
(1)必要性	①当該区間は、昭和42年7月梅雨前線による豪雨(浸水面積50ha、浸水家屋数5,062戸)、平成16年台風23号(浸水家屋14戸)等、過去から幾度も甚大な被害を受けている。 ②川西市多田地区の市街地、国道173号、県道川西篠山線、能勢電鉄妙見線等を浸水被害から守るため、河川改修工事を進めている。残事業区間には堤防高不足区間もあり、継続的な整備を実施する必要がある。					
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	①費用便益比B/C=2.5 ②用地買収も9割程度完了し、事業の執行環境は整っている。					
(3)環境 適合性	①工事による樹木の伐採を最小限に止め、工事影響範囲については現地発生土による覆土を行い緑地の回復を図っている。 ②護岸については捨石工や木工沈床等を採用し、生態系に配慮している。					
(4)優先性	①流下能力の低い区間が残っており、沿川は人家が密集しているため、事業の優先性は高い。					
河川整備 計画の策定状 況	【懇談会等の開催状況】 ①平成23年3月に淀川水系猪名川圏域河川整備計画懇談会を設置し、現在も継続中。 ②これまでに4回の懇談会を開催し、流域概要、利水、環境に関して検討を進めている。 【懇談会等の意見】 ①ホテルは猪名川の中・上流域や支川にも多く生息しており、これを地域資源として住民が認識できるよう、整備計画に反映すべき。					
対応方針	早期に河川整備計画を策定することとし、策定までの間は現計画に基づき事業を継続実施する。					

総合治水対策特定河川事業（一）淀川水系 猪名川



総合治水対策特定河川事業（一）淀川水系 猪名川

未整備区間(多田地区)



整備中区間(銀橋狭窄部)



整備中断面図(銀橋狭窄部)

